1 柳井市古市金屋重要 伝統的建造物群保存地区 (白壁の町並み)

1984 (昭和 59) 年に国選定。中世の 町割がそのまま残されている。江戸時 代から明治中期以前に建てられた本瓦 葺や桟瓦葺の2階建てで、外壁や軒裏 を白漆喰で塗り込めた土蔵造りの町家 が特徴。最も基本的な建築構造形式は、 入母屋造りの妻入りであり、切妻造り の妻入り、平入りも混在している。地 区面積は国内では小規模だが、伝統的 建造物が連続して残っているため、国 内でも価値が高いとされている。



⇔熊毛IC

やまぐちフラワーランド

②金剛寺

平安時代後期の933 (承平3) 年

慈海和尚が清泰院という庵を営んだ のが始まり。1312(正和元)年、 企至三十五 大内重弘が弘法大師遺跡を再興し、 0/~皇太3殿下行营记念射琴場碑 七堂伽藍及び十二坊を造営した。 現在の寺名になったのは 1695 (元禄8) 年。春分の日の大師縁日 は有名。桜やモミジで美しい寺。 宝箧印塔(市文化财) 人の下めに各登場の本等 清泰院の遺構で、1834(建武元年 さ物情はto. 建立。県内の宝篋印塔のうち最古のもの。 宝藤中塔(申371.财)

3茶臼山古墳

4世紀終わりから5世紀初めに造られ た前方後円墳。全長約90mは県内では 3番目に大きい。1892 (明治 25) 年に 発見され、その際発掘された単頭双胴 怪獣鏡(大鏡)は直径 44.8 cmで、古墳 から出土した鏡では日本で有数の大き さ。国の史跡に指定され、現在では 「茶臼山古墳歴史の広場」となった。 後円部頂部からの眺めがよく、資料館 で出土品等を見学することもできる。



4琴石山

標高 545.0mの山頂に登ると四方に視 界が開け、山の南側は瀬戸内海や市街 地が一望でき、北側は日積の盆地を見 渡せる。昔は、一帯を防衛するための 事能(ことよし)城があったといわれ



5国木田独歩ゆかりの地

国木田独歩の作品「欺かざるの記」の 「明治 27 年 8 月 17 日」に、次の記述 がある。これは、岸ノ下(柳井港)か ら琴石山麓にかけて弟収二と散歩した 生活の記録である。

昨夜岸の下に盆踊りありて、夜更けまで、村女達の のはねくり廻るを見物したり、朝、忽ちにして午後、 而して夜。此頃の一日は矢の如く空過す。

昨日午後一時少し前、収二と共に琴石山麓の山家點 在せる邊りを散歩す。渓流に沿うて山路を辿り、松林 に入りて山腹を横ぎる。サコンタを止めて水に浴し、 路傍に沿うて棗を盗む。山寺に入りて僧の眠りを驚か し、犬に吠えられて笑って石を投げつく。田をめぐり、 森を望み、遥かに海水の漂渺たるを眺めなどして、盛 夏日中思うまい、吾が愛する夏を楽しみたり。

~国木田独歩「欺かざるの記」より~



6黄幡神社

牛馬の神をまつる社。1831 (天保2) 年に はこの社があったとの記録が残っている。 祭りは7月中旬と10月14日。 ムクノキの大木がある。



7遍照院

真言宗の寺で、明治初期に創建。同時に 新四国八十八箇所の霊場を開かれたこと から、大畠の大師堂として親しまれてい る。今日でも海難よけの本尊として信者 が多い。

8善知神社

遍照院のさらに山奥を進むと、善知神社 (ぜんちじんじゃ、妙見社)がある。創 建年代不詳だが、江戸時代には社殿も 壮麗で祭儀も盛大に行われていたという







1白壁の町並み

全銅一光三尊立像(市效化財) 金剛等の本尊として落光時より

、分身を得たものといわれている。



サンビームやない

菅原神社

①弘法大師鄉詠歌碑)

②百度石側面歌碑)

高野山むるが滝のそでくちて るの下には有明の月1

信からうない大きのうつるなる

理りせめて類の踏入」

③新四国八十八十所発願碑)

竹なる法の道に入ぬる。 雲場を発願した経緯が

④ 松岡菊枝の句碑

⑤野ロ南情の訴導)

「大師山から日にいくなも

「柳井小明」の第一連。

⑥ 土居南国城の句碑)

「よりか」る冬木の見からが得か 旧判が中学校の英語教師

俳増がをあの門の四天王の

一人といかれた相似で、神神は 遺に残してか緩は大きい。

⑦ 忠魂碑的秀八句)

たらちぬの跡をしたかでくれる

面風の気まとに下されるい。

白湯の出身、女流仙以の高峰。

六道地蔵

代田八幡宮

4琴石山

3茶臼山古墳

春日神社

茶臼山トンネル

三ヶ嶽

松戸八幡宮

5国木田独歩ゆかりの地

清狂草堂

月性展示館

平原稲荷社 立岩土

(承認番号 平成 29年5月9日指令柳都建第99号)

作成:柳井にっぽん晴れ街道協議会